

公開文書

皮膚腫瘍に浸潤する T 細胞のサブセットと発現分子に関する検討

はじめに

近年、悪性黒色腫や肺癌などに使用されるようになった新規薬剤である免疫チェックポイント阻害薬が優れた治療効果が見られることから、今後他の種類の悪性腫瘍にも適応が拡大されると思われます。免疫チェックポイント阻害薬の高い効果から、腫瘍の進展抑制における T 細胞の免疫機能が重要であることが分かってきました。しかし、T 細胞には多くの種類（サブセット）があり、どのサブセットがどのように腫瘍の進展抑制に寄与しているかということに関する詳細な情報は分かっていません。

そこで、患者さんの腫瘍を摘出した際にあまった検体の一部を保管し、腫瘍に集まる免疫細胞の特徴を調べる研究を行うこととなりました。この研究が、皮膚癌に対するより新たな治療法の開発への一助となると期待しています。この研究は筑波大学附属病院倫理委員会の審査と承認をもとに行われております。対象者は当院で皮膚腫瘍（悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌など）に対して腫瘍の切除術を受けられた方です。

目的および方法

この研究の目的は、腫瘍中に集まる T 細胞（制御性 T 細胞、活性化 T 細胞など）の表面に出ている蛋白やサイトカインという蛋白の成分を解析することです。この研究では、カルテに残されている診療記録などの臨床情報も用い、臨床情報との相関も解析します。対象患者さんは 2017 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日を予定しています。

研究期間

研究期間は倫理委員会承認後から 2030 年 3 月を予定しております。

本研究は筑波大学附属病院の倫理委員会で認められた期間に行いますが、倫理委員会で認められた期間を超える場合は、倫理委員会に期間延長を申請し、再度承認を受けることといたします。

参加したときと参加しなかったときに予想されること

この研究で得られる成果は、多くの患者さんからの情報を集計して解析しないと明らかにならないことが予想されます。従って、この研究で余剰検体を使用して得られた結果からのあなたへの直接の利益はありません。一方で、想定される不利益もありません。

資料・情報

手術で採取した余剰の組織片を用いて研究を行います。具体的にはその組織にいるT細胞の分画、サイトカイン発現細胞の割合、表面抗原発現細胞の割合、細胞傷害分子発現細胞の割合を解析します。また、カルテに残されている診療記録から腫瘍のタイプ、部位、性別、年齢を用い、前述の解析項目との相関を検討します。試料・情報の第三者へは提供されません。

費用などの負担について

この研究を実施するにあたり、負担していただく費用はありませんし、負担軽減費などをお支払いすることはありません。

個人情報管理について

解析結果や臨床情報はもちろんのこと、お名前やご住所などの個人情報の保護には十分配慮いたします。個人情報は暗号化され、番号で扱われます。番号の対応表や同意書などの研究に関わる書類やデータ、組織検体は厳重に保管します。

研究の進行状況や発表について

研究の結果は、誰のものか判らないようにして発表される可能性があります。従って、あなたの個人情報は保護されます。この研究で新しい発見があった場合、その発見は知的財産として認められることがあります。そのときのすべての権利は研究責任者側が有することになります。

研究終了後の検体について

この研究が終了したあとで更に検体が残っていた場合には、長期保存し

その後別の研究への使用することがあります。その際には改めて倫理審査委員会の承認を得てから使用します。

お問い合わせ

ご本人またはご家族の方で、この研究に検体を使用されることを望まれない場合や、その他詳しく説明をして貰いたいことや心配なことがあればいつでも下記にご連絡ください。

問い合わせ窓口：筑波大学医学医療系 皮膚科

郵送先：〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話：029-853-3128（平日 10時から 17時まで）

ファックス：029-853-3217

電子メール：hf66tobu@md.tsukuba.ac.jp

施設研究責任者：石月翔一郎